

目指す子供の姿

- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力と数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりする態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①授業において、数学的な見方・考え方を働かせる機会を意図的に設け、数学的活動の充実を図る**
- ◇導入では、問題を見いだす活動と解決の見通しをもつ活動を重視する。単に問題を与えて解かせるのではなく、生徒自らが問題を見いだす機会と「今までに習ったことで、使えそうなことはあるか？」など、既習内容を関連付けて、解決の見通しをもつ機会を設ける。
 - ◇全体共有では、多様な思考を許容し、比較・検討の深化を図る。複数の考えについて、「どの考えが分かりやすいか」「なぜこの考えが最も効率的か」など、比較したり検討したりする機会を設ける。加えて、問題を解き終えた後、「もし条件を変えたら結果はどうなるか？」などと問いかけ、発展的な考察を促す。
 - ◇振り返りでは、思考の言語化と汎用性の獲得ができるようにする。問題解決のためにどのような数量や関係に着目し、どのような考え方をしたのかということについて、具体的に言語化する機会を設ける。加えて、問題解決の過程で得られた知見や法則が、次の学習や身近な生活、社会の事象においてどのように活用できるかを考える機会を設け、学習内容の汎用性を意識することができるようにする。
- ②①の内容に併せて、「徳島版読解力」と「徳島ICT活用モデル」を活用する**
- ◇「徳島版読解力」を踏まえ、数や式、表、グラフなどを用いて自分の考えを記述し説明する機会を単元内に計画的に設ける。
 - ◇「徳島ICT活用モデル」に基づき、ICTを活用して多様な解法の共有やデータの収集・処理などを行うことができるようにし、数学的に考え表現する時間を十分に確保する。